保育職に対する意識調査（第3報）
—— 昭和56年度調査と比較して ——

兼松　　緑

An Investigation on the Occupational Consciousness of Specialists in Nurture (Part III)
—— In Comparison with an Investigation in 1981 ——

Midori KANEMATSU

はじめに

幼児教育の重要性が日々問われている今日，教育に携わる保育者の質の向上が望まれている．現在，保育者の多くは保育者養成校の出身である．そのため保育者の質の向上には，養成校の役割が非常に重要となってくる．養成校が学生に対して行うべき教育内容は多岐にわたり，その中でも実習の占める役割は，保育現場や対象児，保育者の直接的理解，保育・指導計画の立案や技術の習得など，保育者として教育の場に立つための準備教育という点で重要である．しかし，現状ではこのことにもかかわらず，実習希望者が多いのに対し園の受け入れ人数が少ないといった，数々の問題のために「こなす」ことだけに追われがちのようである．このような状況の中で，実習のよりよい成果を得ることは難しい．一方学生にとって実習は，新たな学習への関心，意欲の喚起，保育者としての課題の発見など，数多くのことを学ぶ絶好の機会であり，保育者になろうとする自分を見つめ直す場であるとも考えられる．したがって，その実習を学生が実際はどのように受けとめ，乗り越えていくのかを把握することにより，養成校側が学生に対しより的確な学習への指導を行うことができると考えられる．

現在，本学児童学科3年生において保育園実習（2週間），4年生において幼稚園実習（4週間）が実施されている．Erikson. E. Hの人間周期の考え方（自我同一性理論）によれば，この時期は人間成長，自己確立において重要だとされている．本調査は，この理論を具体化した古沢頼雄（1968）の自我同一性テストを使用し，実習の前後を通してアンケートではとらえきれない内面の変化を引き出すこと，また保育職に対する考え方や問題点についてもあわせて検討を行うことにより，学生が実習をどのように把握しているかを明らかにすることを目的とする．

I　調査対象

調査対象として名古屋女子大学，家政学部児童学科，児童学専攻学生（幼稚園1級取得ならびに保母資格取得希望者）3年生65名，4年生68名とした．

II　調査方法

調査方法は質問紙および自我同一性テストにより，4年生は幼稚園実習をはさんで昭和59年5月31日に第1回を，同年6月22日に第2回を実施し，3年生については保育実習をはさんで昭和59年6月4日に第1回を，同年7月2日に第2回を実施した．実習については3年生は

初めての実習であり，4年生については前年度保育実習を終えて2回目の実習経験である．

III　調査内容

質問紙は第2報と同じく保育職のとらえ方，保育者として必要なこと，保育職に対する適否とその理由など，次に示す項目について行った．自我同一性テストは38項目からなり(表11参照)回答の選択肢は「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3肢である．自我同一性を方向づけ

保育職に対する意識調査

昭和59年5月1日

名古屋女子大学児童学科

この調査は，本学に在学する学生の保育職に対する考え方，感じ方を知るための調査で，学生生活の向上，授業の充実に役立たせるための基礎資料とするものです．今のあなたのありのままの姿で答えてください．また，この調査は個人の考え方，感じ方を調べるものではありません．

番　号　　お父さんの年齢　　お母さんの年齢

クラス　　お父さんの職業　　お母さんの職業

(1) あなたの大学入学の目的は何であったと思われますか，以下の中から1つ選んで，その番号を書いてください．(最もあなたの気もちに近かったものを選んでください．)

1．教養を深める．　2．学園生活を楽しむ．　3．良い友人を得る．　4．学問を研究する．

5．就職準備．　6．その他(　　)　7．わからない．　答え(　　)

(2) あなたが，現在在学している学科は第一志望でしたか．

ハイ(　　)　イイエ(　　)

(3) イイエと答えた方，何学科を志望していましたか．

(　　)

(4) ハイと答えた方，保育系学科の志望理由は何だったのでしょうか．あなたの気もちに最も合うものを1つ選んでその番号を書いてください．

1．保育者として仕事をしたい．　2．子どもが好きだから．　3．将来，役立つこともあるから．

4．育事に役立つ．　5．他人にすすめられて．　6．その他(　　)　答え(　　)

(5) あなたは，卒業までに保母資格を得るつもりですか．

ハイ(　)　イイエ(　)　すでに得ている(　)

(6) イイエと答えた方，その理由は何でしょうか．

(7) ハイと答えた方，その理由は何でしょうか．

(8) 卒業後保育職(幼稚園，保育所，施設を含む)に，就きたいと思いますか．

ハイ(　　)　イイエ(　　)

(9) 働く場所としての，幼稚園，保育所，施設ということばを聞いて，あなたはどのようなイメージを，受けますか．

それぞれに答えてください．

幼稚園(　　)

保育所(　　)

施　設(　　)

(10) 保育職へ就きたいと答えた方，どこへ勤めたいと思いますか．1つ選んでください．
1．幼稚園　2．保育所　3．施設　4．わからない　5．その他　答え(　)

(11) 保育職へ就きたいと答えた方，いつまで勤めたいと思いますか，1つ選んでください．
1．生涯の仕事として．2．一時やめて，子どもが大きくなったらまた．3．まだわからない．
4．結婚するまで．5．出産するまで．答え(　)

(12) 保育職へ就きたいと答えた方，保育職をどういうものだと思いますか．上位3つを選んでください．
1．子どもが好きでなくては勤まらない．2．心身ともに健全でなければ勤まらない．3．しっかりした人生観，教育観がなければできない．4．重要で社会的に認められている．5．女性にふさわしい職業だ．6．向上心，研究心がなければついていけない．7．対人関係がむずかしい．8．地味であまりめだたない．9．高度な専門的技術が要求される．
答え(　)(　)(　)

(13) 保育職へ就きたいと答えた方，保育者として必要なことは何であると思いますか．上位3つを選んでください．
1．子どもを理解すること．2．子どもが好きであること．3．健康であること．4．熱意(意欲)があること．5．根気強いこと．6．明朗活発であること．7．責任感が強いこと．8．指導力があること．9．円満な人がら．10．専門的知識，技術のあること．11．創造力に富んでいること．12．社会的常識があること．13．研究心があること．14．協調性があること．15．ピアノがよくひけること．16．しっかりした人生観，教育観をっていること．17．その他(　)答え(　)(　)(　)

(14) 卒業後保育職へ就かないと答えた方，どの方面へ進みたいと思いますか．
1．結婚　2．その他(　)

(15) 保育職以外の場所に就職したいと答えた方，いつまで勤めるつもりですか．1つ選んでください．
1．生涯の仕事として．2．一時やめて子どもが大きくなったらまた．3．まだわからない．4．結婚するまで．5．出産するまで．
答え(　)

(16) 名古屋女子大学に入学して満足していますか．1つ選んでください．
1．満足している．2．まあまあ満足．3．どちらともいえない．4．少し不満．5．不満である．
答え(　)

(17) 少し不満，不満であると答えた方，それは何についてですか．具体的に書いてください．

(18) あなたは今，なやみごと(不安)がありますか．
1．なやんでいる(不安がある) 2．なやみごとはない．3．わからない．
答え(　)

(19) あると答えた方，何についてでしょうか．あてはまるものを選んでください．
1．勉学上のこと．2．健康上のこと．3．友人，対人関係について．4．人生観について．5．就職，将来の進路について．6．異性の問題について．7．家族や家庭内のことについて．8．学費，家計などお金の問題について．9．政治，経済など一般社会問題．10．その他
答え(　)

(20) 就職，将来の進路に不安があると答えた方，どんな点についてですか．具体的に書いてください．

(21) あなたは，不安やなやみをどのように解消していると思いますか．あてはまるものを選んでください．
1．友人に相談する．2．先輩に相談する．3．自分で読書等で解消する．4．先生に相談する．5．家族に相談する．6．なりゆきにまかせる．7．医師に相談する．8．その他
答え(　)なやみごとの相談は，なやみの種類によって相談する人が異なると思います．総体的にみてどの方法で解消することが多いかを，考えて答えてください．

ている選択肢に1点，他の選択肢には0点をあたえている．したがって尺度得点の分布は0～38点にわたっている．38項目のうち35項目については否定の解答が得点になっており，あとの3項目(問7，12，および13)のみが肯定の解答で得点となる．

Ⅳ　自我同一性の確立と同一視

青年期を特長づける心理構造の1つに自己意識の発達が考えられる．この時期に達した人間にあたっては，自己に目を向けることが可能になるとともに主観的，あるいは客観的に自分を切り離して1つの世界として眺めることができるようになる．そこでは以前の全ての経験から一定の成果を自分のものとして統合しようとする試みがくり返される．

このような観点にたって青年期の意義を論じている研究者は数多くいるが，なかでもエリクソン(Erikson. E. H)はこの時期における人格の発達を自我同一性(ego identity)によって特長づけている．同一性ということばは，社会的な是認のもとに形成されてきた自己像(自己の役割への認識)と個人内におけるそのような自己像の定着を意味している．エリクソンの「人生周期)の考え方によると，人間はその一生を通してそれぞれの発達段階に特有の中心的課題をもちこれらの課題を順次解決していくことによって望ましい精神的成熟が可能であるとされている．これらの課題が順次積みかさねられ，総合されて一応の統合に達し，いわゆる一人前のおとなとみなされる青年期前期の課題がアィデンティティ(自我もしくは自我同一性)の確立ということである．

思春期の危機とよばれる現象は，この時期に一方では急激に出現する生理学的な不安定感の体験ということであり，他方には心理社会的にみて重要な問題が，限られた短い時期に解決を迫り，しかもこれらのさまざまな体験を「自分」というものの中に統合しなければならないことに基づいている．しかし，自我同一性というものが完成するのはむしろ青年後期であるとエリクソンは考える．

結果および考察

調査結果は，表を読みやすくするためパーセントで表示し，検定は得票個数について行なった．

表1～3の結果は第2報と同じように，先生になるという目的意識をもって入学する学生が多く，年度が進むにつれ「就職準備」の項目を選ぶ割合が増えている．また，本学を第一志望としている学生は毎年7～8割ほどであるが，前回報告の保育科系私立短大においては9割の学生が第一志望であると答えている．これは本学が4年制大学であることが関係しているのであろう．「本学が第一志望でない」と答えた者の希望学科をみると文化系希望者が多い．その中で3年生では，本学児童教育が第一志望であった者がめだっている．

保育系学科志望者に，本学への入学理由を質問すると(表4)「保育者として仕事がしたい」

表1　在学学科と入学希望学科との違い

	3年生(%)	4年生(%)	56年度4年生(%)
在学学科が第一希望である	70.8	83.8	71.8
在学学科が第一希望ではない	29.2	16.2	28.2

表2　大学入学の目的（1個選択）

	3年生(%)	4年生(%)	56年度4年生(%)
教養を深める	16.9	39.7	37.2
学園生活を楽しむ	13.8	2.9	9.0
良い友人を得る	6.2	1.5	3.8
学問を研究する	7.7	13.2	5.1
就職準備	50.8	38.2	34.6
その他	3.1	2.9	5.1
わからない	—	—	1.3
無解答	1.5	1.5	3.8

表3　本学が第1志望でないと答えた者の希望学科

学　年	希望学部・学科	人数	希望学部・学科	人数
3年生	教育学部	1	史学科	1
	英文科	1	体育学科	1
	国文科	1	本学児教	11
	社会学科	1		
4年生	教育学部	1	本学児教	2
	福祉学科	1		
	英文科	1		
	国文科	1		

表4　保育学科志望の理由（1個選択）

	3年生(%)	4年生(%)	56年度4年生(%)
保育者として仕事がしたい	47.8	63.2	55.4
子供が好きだから	26.1	14.0	19.6
将来役に立つことがあるから	21.7	12.3	12.5
育児に役立つから	2.2	3.5	3.6
他人にすすめられて	2.2	—	1.8
その他	—	7.0	3.6
無解答	—	—	3.6

と答えた者が3年・4年ともに多いことがわかる．また，質問(5)の結果から卒業までに100%の学生が保母資格を得るつもりであると解答した．

保母資格取得希望の理由(表5)は「就職に有利」「保育職につきたい」などがおもなものである．

表6をみると前報と同様に「卒業後保育職に就きたい」と答える者の比率が高いが，その比率は56年度に比べ増している．

表7は，「どこへ勤めたいか」を質問したものであるが，3年生において実習後「わからない」

表5　保母資格取得希望の理由（自由記述）

	3　年　生	人数	4　年　生	人数
理由	就職に有利	15	就職に有利	8
	保育職に就きたい	16	保育職に就きたい	28
	資格はとっておきたい	12	資格はとっておきたい	8
	将来何かに役立つ	11	とれる資格はとっておく	5
	幼児教育に必要	2	将来何かに役立つ	5
	保育者という仕事に興味がある	1	幼児教育に必要	2
	子どもと接する上で役立つ	1	自分なりに勉強し理解できるから	1
	学んだことを生かしたい	1	施設に就職したい	1
			福祉事業に参加したい	1

表6　卒業後の就職希望

	3　年　生（保育所）		4　年　生（幼稚園）		56年度4年生（幼稚園）	
	実習前（%）	実習後（%）	実習前（%）	実習後（%）	実習前（%）	実習後（%）
保育職に就きたい	83.1	84.6	91.2	89.7	79.5	82.1
保育職には就かない	15.4	6.4	8.8	10.3	17.9	16.7
わからない	1.5	7.7	—	—	—	—
無回答	—	1.5	—	—	2.6	1.3

表7　卒業後の就職希望先

	3　年　生（保育所）		4　年　生（幼稚園）		56年度4年生（幼稚園）	
	実習前（%）	実習後（%）	実習前（%）	実習後（%）	実習前（%）	実習後（%）
幼稚園	68.5	49.1	66.1	78.8	80.6	81.3
保育所	9.3	27.3	24.2	13.1	16.1	12.5
施設	3.7	1.8	3.2	1.6	3.2	3.1
わからない	14.8	21.8	6.5	4.9	—	3.1
その他	3.7	—	—	1.6	—	—
無解答	—	—	—	—	—	—

と答える者が増している．これは56年度にも見られた現象である．このことは，学生が初めて保育現場に接し「はたしてやって行けるだろうか」という気もちを持つからであろうと思われる．一方，4年生では，幼稚園実習後78.8%の者が幼稚園への就職を希望している．これは保育所，幼稚園の実習を終え就職が身近に迫っていることとあわせ，労働条件がよい，また社会的地位が保育所より高いと学生が感じることから，こういう結果が出ているのであろう．しかし，地域によっては保育所しか設置されていないところがあり，これまでの就職状況からすると希望どおりの就職ができないのが現状である．

表8からは，半数の者が子育ての時期は除いても保育職を生涯の仕事として考えていることがわかる．しかし，4年生では「結婚するまで」と答える者の比率が実習後増えており，56年度4年生と比較するとかなりの差がある．これは本人が生涯の仕事として考えていてもそうで

表8　就職後の就職希望期間

	3　年　生（保育所）		4　年　生（幼稚園）		56年度4年生（幼稚園）	
	実習前（%）	実習後（%）	実習前（%）	実習後（%）	実習前（%）	実習後（%）
生涯の仕事として	24.1	25.4	21.0	18.0	22.6	21.9
一時やめて子供が大きくなったらまた	29.6	23.6	19.4	16.4	40.3	25.0
まだわからない	20.4	29.2	33.9	31.1	29.0	32.8
結婚するまで	11.1	5.5	9.7	14.8	——	7.8
出産するまで	14.8	14.5	16.1	19.7	6.5	12.5
無解答	——	1.8	——	——	1.6	——

きない現状があるからであり，実習先でその現状をまのあたりにするためであろう．

表9－aの結果の順位をみると，実習の前後で上位項目に大きな変化はみられない．選択された項目から考えれば，早い時期から「保育職とは何であるか」というしっかりした概念ができ上がっていることがうかがえる．ところで，56年度4年生と比較すると⑨「高度な専門技術が要求される」の項目が上位にランクされている．このことは保育職が専門職として認識されてきた表われであろうと思われる．表9－bからは比率の変化をみることができるが，4年生において④「重要で社会的に認められている」の項目を実習後だれも選択しなかったこと，3年生でもこの項目の比率が少ないことに注目したい．

保育園実習では，期間が短いこともあり(2週間)どうしても手助け的存在になりやすい．また，実習受け入れ側も労働力として実習生を見ている場合が往々にしてある．これらの理由か

表9－a　学生が保育職に必要と考える適性（上位3つを選択）

	3年生（保育所）		4年生（幼稚園）		56年度4年生(幼稚園)	
	実習前	実習後	実習前	実習後	実習前	実習後
① 子供が好きでなくては勤まらない	1	2	2	2	2	2
② 心身ともに頑健でなければならない	2	1	1	1	1	1
③ しっかりした人生観，教育観がなければならない	4	4	4	4	4	4
④ 重要で社会的に認められている	6	6	8	☆	8	8
⑤ 女性にふさわしい職業である	8	6	7	7	5	5
⑥ 向上心，研究心がなければついていけない	3	3	3	3	3	3
⑦ 対人関係がむつかしい	7	6	6	6	6	6
⑧ 地味であまりめだたない	9	☆	9	9	☆	☆
⑨ 高度な専門的技術が要求される	5	5	5	5	7	7
⑩ 無解答	☆	☆	☆	8	☆	☆

表示は多く選択された順位。☆は選択がなかった。

表9－b

（** < 0.01　df = 1）

	3年生（保育所）		x^2検定	4年生（幼稚園）		x^2検定	56年度4年生(幼稚園)	
	実習前	実習後		実習前	実習後		実習前	実習後
① 子供が好きでなくては勤まらない	29.0	27.3		24.2	21.9		25.8	25.5
② 心身ともに頑健でなければならない	28.3	29.7		29.0	29.5		32.3	28.6
③ しっかりした人生観，教育観がなければならない	10.5	11.5		11.3	12.6		10.2	12.0
④ 重要で社会的に認められる	2.5	1.2		1.6	—		1.1	0.5
⑤ 女性にふさわしい職業である	1.2	1.2		2.7	2.7		6.5	6.3
⑥ 向上心，研究心がなければついていけない	19.1	22.4		16.7	18.0		18.3	22.9
⑦ 対人関係がむずかしい	1.9	1.2		3.2	4.4		3.2	3.1
⑧ 地味であまりめだたない	0.6	—		1.1	0.5		—	—
⑨ 高度な専門的技術が要求される	6.8	5.5		10.2	9.3		2.7	1.0
⑩ 無解答	—	—		—	—		—	—

ら学生は，子どもたちの日常生活の世話に追われ教育的な立場にたつ実習を経験することがむずかしい．そのため「保母職は特別の教育をうけなくてもできるのではないか」と感じるのであろう．そのような思いが，いっそう④の項目の選択を阻止しているように思われる．4年生で幼稚園実習を経験して，なお根強くのこっているのは個人的な経験からだけではなく，一般社会通念にも影響されていると思われる．

「保育者として必要なもの」について，上位項目に実習前後で変化がみられた．4年生では，4位であった②「子供が好きであること」の項目が実習後10位におちていること，この変化はX^2検定において有意差が認められた．また，6位であった⑩「専門的知識，技術があること」の項目が3位に上っている．これは，56年度4年生に比べると大きな変化であり，5位に⑯「しっかりした人生観，教育観をもっていること」の項目を選択していることを考えあわせると，「女性に適した職業であるから」「子供が好きだから」という動機からではなく，「幼児教育に真剣に取り組みたい」と考える者が増えていることを示唆しているものと思われる．一方，3年生では，1位が②「子供が好きであること」から①「子供を理解すること」へ，2位は，①「子供を理解すること」から③「健康であること」へ実習後，変化している．また，5位に「研究心があること」を実習後選択している．これは初めての実習を経験して4年生ほどではないが，子供を理解してゆく技術も含め，大学で学んだことを活用してゆく能力が必要であるということがわかったのであろう．

保母養成資料第18号(1981)特集：保育学生の意識調査においても「学生の“How to”的志向にいたずらに迎合せず，むしろ高い次元のもの，すなわちテクニックではなくメソードを探求する姿勢に転換させていくことが，保育者養成教育にとって大切な課題であると思う．」と述べられているが，学生の動向をみると，この方向に向って伸びてきているのではないかと思われる．

表10－a　保育者として必要なもの（上位３つ選択）

	3　年　生（保育所）		4　年　生（幼稚園）		56年度４年生（幼稚園）	
	実習前	実習後	実習前	実習後	実習前	実習後
① 子供を理解すること	2	1	1	1	1	1
② 子供が好きであること	1	4	4	10	4	4
③ 健康であること	4	2	3	2	2	2
④ 熱意（意欲）があること	3	3	2	4	3	3
⑤ 根気強いこと	10	10	11	12	12	12
⑥ 明朗活発であること	5	5	5	6	7	7
⑦ 責任感が強いこと	12	☆	13	13	10	9
⑧ 指導力があること	11	7	12	9	10	7
⑨ 円満な人がら	9	13	9	8	6	6
⑩ 専門的知識・技術があること	8	7	6	3	8	10
⑪ 創造力に富んでいること	☆	☆	☆	☆	15	☆
⑫ 社会的常識があること	6	9	7	6	7	7
⑬ 研究心があること	7	5	9	10	8	5
⑭ 協調性があること	12	12	14	14	5	13
⑮ ピアノがよくひけること	☆	12	14	☆	13	☆
⑯ しっかりした人生観，教育観をもっていること	10	10	7	5	9	10
⑰ その他	☆	☆	☆	☆	13	☆
⑱ 無解答	☆	☆	☆	☆	☆	☆

表10－b

（**＜0.01 df ＝1）

	3年生（保育所）		x^2検定	4年生（幼稚園）		x^2検定	56年度４年生(幼稚園)		x^2検定
	実習前(%)	実習後(%)		実習前(%)	実習後(%)		実習前(%)	実習後(%)	
① 子供を理解すること	17.9	23.0		21.0	23.5		20.4	20.8	
② 子供が好きであること	19.1	11.5		10.1	2.7	** 7.45	10.8	10.4	
③ 健康であること	12.3	17.0		12.4	19.2		18.3	19.3	
④ 熱意（意欲）があること	14.8	15.2		14.5	9.8		14.0	18.2	
⑤ 根気があること	2.5	2.4		7	2.2		2.2	1.6	
⑥ 明朗活発であること	7.4	6.1		8.6	6.0		4.3	3.6	
⑦ 責任感が強いこと	0.6	—		1.6	1.6		2.7	3.1	
⑧ 指導力があること	1.9	4.8		2.2	3.3		2.7	3.6	
⑨ 円滑な人がら	3.1	0.6		3.8	3.8		4.8	4.2	
⑩ 専門的知識・技術があること	4.9	4.8		6.5	11.5		3.2	2.6	
⑪ 創造力に富んでいること	—	—		—	—		1.1	—	
⑫ 社会的常識があること	6.8	3.6		5.9	6.0		4.3	3.6	
⑬ 研究心があること	5.6	6.1		3.8	2.7		3.2	3.7	
⑭ 協調性があること	0.6	1.2		1.5	1.1		6.5	0.5	** 9.95
⑮ ピアノがよくひけること	—	1.2		1.5	—		1.6	—	
⑯ しっかりした人生感観育観をもっていること	2.5	2.4		5.9	6.6		3.2	2.6	
⑰ その他	—	—		—	—		1.6	—	
⑱ 無解答	—	—		—	—		—	—	

表 11，表 12 は自我同一性テスト項目と，その結果である．テスト実施前に，筆者は「各学年とも実習後，得点は上がるであろう．」と仮定した．―― すなわち，実習という試練が，少なからず自己形成に対しよりよい方向に作用すると考えていた．―― しかし，このテスト結果によると平均点では 3，4 年ともに若干増加しているが，t 検定の結果からは有意差は認められなかった．このことは，実習がよりよい方向の自己形成への要因にならなかったと思われる．し

表11　自我同一性尺度項目

No.	項　　目
1	やりそこないをしないかと心配ばかりしている
2	私は立派な人になろうという希望を失いそうになる
3	人から非難されると非常にこたえる
4	すぐまごつく方だ
5	人にもっと好かれるようになりたい
6	何でもうちあけられる人は自分にはいない
7	私の生きがいは人を幸福にすることだ
8	知らない人と会うのは気が重い
9	将来のことがいろいろ心配だ
10	なかなか決心がつかずすごく悩んだことがある
11	自分ひとりで初めてのことをするのが心配だ
12	人が自分をどう考えていようとそんなことは気にしない
13	つらいことも悲しいことも一人でがまんする
14	自分の考えたことや感じたことを言葉でうまく表わすことができない
15	したいことをあまりやれないでいる
16	自分の心に大きな変化がおこり自分が変わってしまったように思うことがある
17	自分のしたいことが何であるかわからない
18	私の心はとても傷つきやすい
19	自分はごく限られた人としか気が合わない
20	人生のはかなさを身にしみてわかる
21	他人が私のことをどうみているか気になる
22	危険や困難に直面するとしりごみする
23	人の言ったことややったことですぐ気をわるくする
24	どうしてよいか決心のつかないことがよくある
25	ときどき私は全くだめだと思うことがよくある
26	私は生まれてこなければよかったとときどき思う
27	私はいつも本当のことをいうとは限らない
28	あきっぽく根気が続かなかったことが何度も続いたことがある
29	本当に尊敬できる人が自分にはいない
30	「だれも私をわかってくれない私はひとりぼっちだ」と思ったことがある
31	おとなになるのがすごくいやだと思ったことがある
32	自信がないためものごとをあきらめてしまうことがよくある
33	何でもものごとを始めるのがおっくうだ
34	私はかわいそうな人間だ
35	今の自分は本当の自分でないように思う
36	ときどき私は役に立たない人間だと思う
37	一度決めたことでも人からいわれるとすぐ決心が変わってしまう
38	たいていのことで他の人より自分の方が劣っているように思う

表12　実習前後における自我同一性テスト得点の変化

（** P＜0.01　*＜0.05）

	3年生(保育実習)		4年生（幼稚園）		56年度4年生(幼稚園)	
	実習前	実習後	実習前	実習後	実習前	実習後
得点範囲	2～31	1～35	3～31	2～35	0～31	0～33
平均	15.3	15.9	17.0	18.2	13.8	15.3
標準偏差	7.4	7.9	7.7	7.9	7.1	7.7
t 検定	t＝－0.39	df＝128	t＝－0.87	df＝134	t＝－2.73 **	df＝154

かし，3，4年生共に実習の前後で大きな変化をみた者がおり(例　実習前5点→実習後21点，実習前15点→実習後3点)，実習は，良きにつけ悪しきにつけ学生に大きな影響を与えていると考えることができる．(この結果には表わされていないが，3年生で38.1%の者が，4年生では33.8%の者が実習後得点が下がっている．)また，3，4年ともに56年度4年生と比較すると，平均が上っており，「実習は有意義でしたか」という質問に対し，4年生で100%，3年生では97%の者が有意義であったと答えている．このことを考え合わせると，実習が自己形成の一要因になりえなかったとしても，自分自身を見つめ直す大きな動機の一つにはなりえたのではないかと考えることができる．

このテストでは実習を受けなかった者との比較は不可能なので，想像の枠をこえることはできないが自我同一性テスト及び，アンケートの結果，また学生自身の話を総合して考えると以上のように思われる．

表13　本学に対する満足度

	3年生（保育所）		4年生（幼稚園）		56年度4年生(幼稚園)	
	実習前(%)	実習後(%)	実習前(%)	実習後(%)	実習前(%)	実習後(%)
満足している	16.9	21.6	22.1	20.7	10.3	14.1
まあまあ満足している	26.2	40.0	42.6	42.6	47.4	50.0
どちらともいえない	49.2	33.8	14.7	17.6	34.6	29.5
少し不満	6.2	4.6	19.1	14.7	6.4	6.4
不満である	1.5	—	1.5	2.9	3.8	—
無解答	—	—	—	1.5	—	—

「本学に入学して満足していますか」との質問に対して，大半の者が「満足」「まあまあ満足」と答えている．毎年7割ほどの者が本学児童学科を第一志望していることを考えあわせれば，妥当な結果であると思われる．

表15～17は「なやみごとの有無」「なやみごとの内容」「解決方法」をたずねたものである．特に注目されるのは，3年生において「なやみごとの内容」の中で，「勉学上のこと」の項目が，実習の前後で大きく変化していることである．内容をみると「実習について」と答える者が多く，学生の実習に対する緊張感を知ることができる．また，4年生で8割ほどの学生が「なやんでいる」と答え，その大半が教育職への就職についてである．内容をみると「就職できるかどうか不安である」「就職難である」などと答える者が多く，具体的には「地元に就職口がない」

表14　実習前後におけるなやみごと（不安）の変化

	3年生（保育所）		4年生（幼稚園）		56年度4年生(幼稚園)	
	実習前(%)	実習後(%)	実習前(%)	実習後(%)	実習前(%)	実習後(%)
なやんでいる(不安がある)	60.0	52.3	76.5	75.0	74.4	78.2
なやんでいない	16.9	30.8	16.1	19.1	16.7	15.4
わからない	23.1	16.9	7.4	5.9	9.0	5.1
無解答	—	—	—	—	—	5.3

表15　なやみごと（不安）の理由（自由選択）

	3年生（保育所）		4年生（幼稚園）		56年度4年生(幼稚園)	
	実習前(%)	実習後(%)	実習前(%)	実習後(%)	実習前(%)	実習後(%)
勉学上のこと	24.4	14.3	10.5	10.7	10.9	5.3
健康上のこと	3.7	3.6	6.6	2.7	1.2	—
友人・対人関係	9.6	14.3	1.3	5.3	4.9	2.6
人生観について	14.6	8.9	7.9	6.7	7.3	6.6
就職・将来の進路について	29.3	39.3	61.8	64.0	65.9	73.7
異性の問題について	8.5	8.9	3.9	4.0	3.7	1.3
家族や家庭内のことについて	2.4	3.6	6.6	2.7	3.7	5.3
学費，家計などお金の問題について	1.3	1.8	—	1.3	—	1.3
政治，経済など一般社会問題について	—	—	—	—	—	—
その他	6.2 (自分にかかる責任について)	5.3	1.4	2.6	1.2	2.6
無解答	—	—	—	—	1.2	1.3

表16　なやみごと（不安）の解消方法（自由選択）

	3年生（保育所）		4年生（幼稚園）		56年度4年生（幼稚園）	
	実習前(%)	実習後(%)	実習前(%)	実習後(%)	実習前(%)	実習後(%)
友人に相談する	41.8	39.2	45.3	45.5	45.1	47.0
先輩に相談する	9.2	6.2	4.7	3.6	3.9	5.1
自分で読書等により解消する	6.1	7.2	5.7	4.5	4.9	1.7
先生に相談する	2.0	5.2	3.8	3.6	3.9	6.8
家族に相談する	15.3	22.7	19.8	21.8	25.5	27.4
なりゆきにまかせる	19.4	15.5	17.0	17.3	10.8	8.4
医師に相談する	—	—	—	—	—	—
その他	4.2	3.0	2.8 (いろいろな人と相談)	3.7 (自分自身で考える)	5.9	3.4
無解答	2.0	1.0	0.9	—	—	—

「名古屋で就職したいが自宅生しかとらない」などなやみを訴える者がある．就職についてのなやみは，友人や家族などまず身近な人に相談する者が多いが，最終的にはすべての者が先生に相談して決定することになる．

就職については，55年度から愛知県内の私立園でも統一テストが実施されるようになったが就職決定が全体的におそい(2月，3月ということもある)ことも不安を大きくさせていると思われる．

ま　と　め

本調査は，実習を学生がどのように把握し，また実習を通して学生の内面の変化を明確にすることを目的とした．そのために実習の前後で2度のアンケート及び自我同一性テストを実施し分析を行った．そのおもな結果は以下のようである．

1．本学の学生は目的意識をもって入学し，その目的を全うしようとする傾向がみられた．

2．多くの学生が実習を通して，保育者としての適性をより明確に把握したと考えられた．

3．実習は自己形成の一要因になりえなかったとしても，自分自身を見つめ直す大きな動機の1つにはなりえたのではないかと考えられた．

以上のことにより，今後，養成校側として入学当初より保育者の資質について学生を目覚めさせる方向づけをしていくことが大切であり，小手先だけの技術に終始するのでなくしっかりした価値観・教育観及び乳幼児を見る目を身につけさせることが重要であると思われる．

参　考　文　献

1) 全国保母養成協義会：保母養成資料第18号，34～36(1981，2)

2) 全国保母養成協義会：保母養成セミナー報告書，63～66(1981，3)

3) 全国保母養成協義会：昭和56年度全国保母養成セミナー要旨，41～47(1981)

4) 全国保母養成協義会：第20回研究大会発表論文集，47～77(1981)

5) R. I. エヴァンズ：エリクソンとの対話，151～167(1976)

6) 依田新編：現代青年の人格形成，第4章，金子書房(1968)